

特別講演「近代の文化遺産(産業遺産)について」

スチュアート・スミス氏(国際産業遺産保存委員会事務局長)

私はユネスコの産業遺産に 20 年間ほど関わってきた。まずイギリスの中央部にある 1779 年に世界で初めて鉄でできた橋のあるアイアンブリッジ峡谷に関わった。1972 年に緑に囲まれた中からアイアンブリッジの高炉の跡を発見し、1987 年にアイアンブリッジが世界で初めて産業遺産として登録された。そして全ての峡谷一つが遺跡を集めて、その全体が産業遺産として登録された。

また、もう一つの産業遺産の例としてお話したいのは、イギリスの紡績の町の例である。三つの都市が一つになって、シリアルノミネーションとして産業遺産として取り上げられた。

1992 年に私はアイアンブリッジからコーンウォールに戻ってきた。位置としてはイギリス南西端の日本における鹿児島のような位置である。ここで初めて蒸気小屋(エンジンハウス)が 18 世紀に発明された。この場所を産業遺産に登録するために、20 年間の努力があった。私はまず博物館を作り、そして人々が訪れるような施設を作った。このコーンウォールでの問題は余りにも多くの遺産があったということだ。家があったし、7,000 もの鉱山があった。4 年間かけて専門家が残った遺跡を全て一つ一つ調査した。何が産業遺産としてノミネートされる構成要素になるかを調査した。

また、メキシコの鉱山で、コーンウォールと同じようなものがオーストラリア、ニュージーランド、アメリカ、南アフリカに作られてきている。従って、コーンウォールの炭坑の文化がメキシコやオーストラリア、南アフリカに広がったことにより、コーンウォールを産業遺産に申請するときに、こうした他の外国のコーンウォールの文化が浸透したのが一緒に登録を願っている。

このようなシリアルノミネーションの動きが九州の産業遺産の例として始まっている。九州は薩摩から長州へ日本の近代遺産ルートをしている。この取り組みは 15 年前鹿児島から始まった。九州山口の産業遺産のシリアルなノミネーションの動きとしては遺産群として多くのものが一つになって、日本の近代化を物語る形になっている。これは炭坑や造船所の跡のみならず様々な洗浄も含まれている。こうした様々な産業遺産が一つになって日本の近代化を証明する構成要素になっている。



アイアンブリッジ



コーンウォール



薩摩から長州へ
~日本の近代化世界遺産ルート~

ここで皆様の問題の砂防事業がよいものかということですが、近代の遺産として十分に進められていくべきでないかと考えている。砂防の施設と同じように並べられる例がノルウェーに見られる。立山の最初の砂防施設と同じ時期に作られたノルウェーの水力発電の施設がある。つまり水力発電を産業遺産とするのみならず、氷河が水を運び、輸送システムがあり、工場が生まれており、全体のトータルとして産業遺産になっている。



水力発電施設（ノルウェー）

この写真はすでにノルウェーで産業遺産として選ばれている水力発電の建物でミュージアムになっている。私はノルウェーの産業遺産の登録にも関与して、またスウェーデンの産業遺産にも関与している。

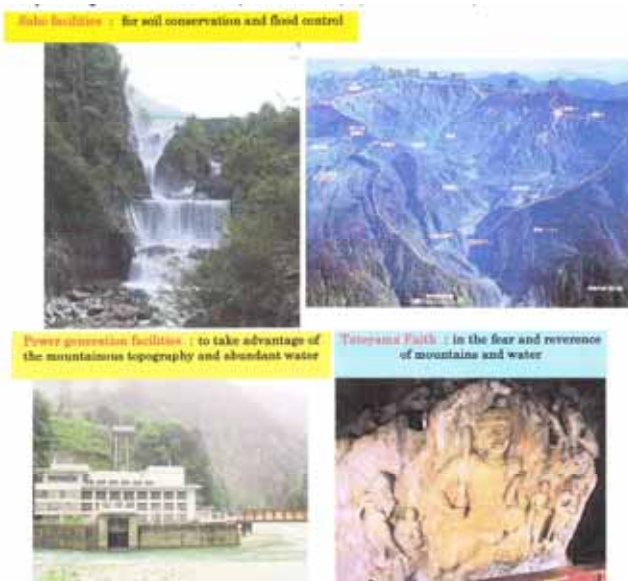


グリムトンのラジオ局

グリムトンのラジオ局は国際的なラジオのシステムで、スウェーデンから直接アメリカにラジオを送信できるシステムである。これは 1920 年代に建てられたものだが、一番古いラジオ局で現在もまだ活動しているということでもユニークな産業遺産である。この写真は電話会社がそれぞれ受信できる写真です。これがスウェーデンのグリムトンのラジオ局のタワーです。ですから、この産業遺産が現在もなお活動しているという意味において、非常に重要だと思う。

では、この砂防をどのように産業遺産として登録していくか、その今後の手順を話したい。まず、ここはイコモスに申請することになる。イコモスに申請すると自動的に私が事務局長をしている国際産業遺産保存委員会（TICCIH）に依頼が来る。そして私共の TICCIH が技術者（専門家）を何人が推薦する。世界中から推薦する。その人たちがここの砂防の施設を調査（視察）することになる。そしてまず技術者による視察が終わって今度は次の専門家が視察に来る。その人たちはまず、領域、どこからどこまでが対象となるのか、それからどのようにして遺跡群が保存されているのか、管理されているのかを検討する。

すでに富山の砂防技術は世界各国に広がっている。従って国境を越えたシリアルなノミネーションが先ほどのテキスタイルやコーンマイニングの例にも見られたが国境を越えたシリアルなノミネーションが可能ではないでしょうか。



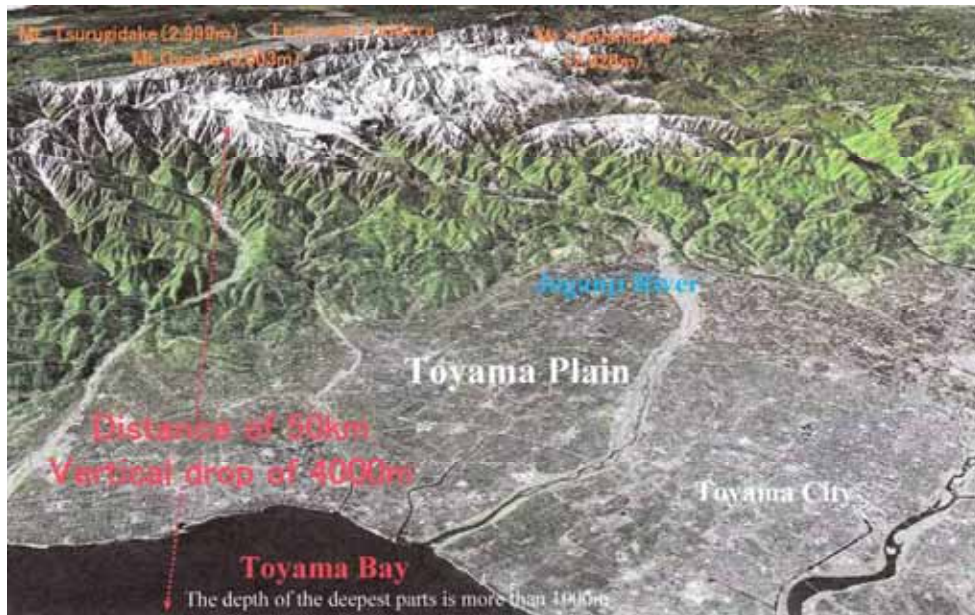
立山黒部～防災大国日本のモデル
- 信仰・砂防・発電 - ~

ここに来る前にユネスコのパンフレットを手にしたが、ここで一体何が世界の顕著で普遍的な価値があるのか、これがユネスコの文化遺産登録にあって重要な基準となる。これによるとまず、いくつか基準があるが、ここで一番関係してくる基準は「() 人類の創造的才能をあらゆる傑作であること」

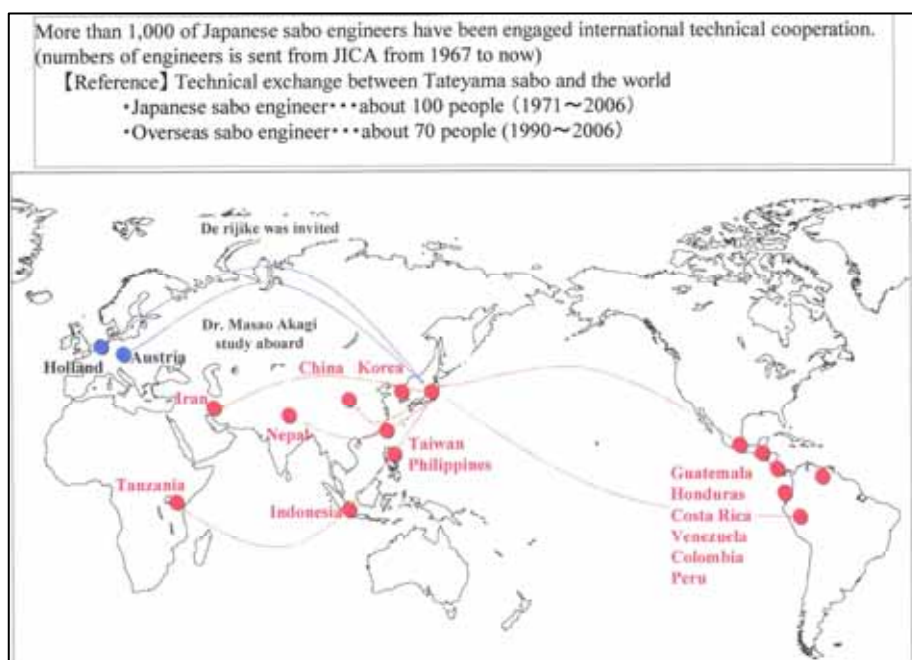
それからユネスコの2番目の基準として、「() 建築、科学技術、記念碑、都市計画、景観設計の発展に重要な影響を与えた、ある期間にわたる価値観の交流又は文化圏内の価値観の交流を示すものであること」

4番目の基準として、「() 歴史上の重要な段階を物語る建築物、その集合体、科学技術の集合体、あるいは景観を代表する顕著な見本であること」、この以上の1, 2, 4番目の基準が砂防を産業遺産として申請する時に基準に合致すると考えている。

今回この国際砂防フォーラムに招待いただき、素晴らしい砂防技術を見ることができた。素晴らしい歓迎を感謝している。



立山カルデラと富山平野



世界へ広がる砂防